



阿久津 佳子 議員



ごみ処理一元化について

問 ①進捗^{しんちよく}状況、②有料指定袋の価格、原価製造費、小売販売手数料、流通管理委託費、その他事務委託手数料、また、指定ごみ袋はさしま環境管理事務組合で統一なのか、③可燃ごみ収集日の増減、④古河地区一元化での物理的問題や課題、既に分別・減量化を行っている古河地区市民への評価、古河クリーンセンターの存続の有無、一元化後の建物や跡地利用、⑤市民へ

の説明・合意形成における視点・着地点とスケジュール、⑥市長が考える指定有料可燃ごみ袋および3地区一元化の導入時期、受益者負担と公平性、以上について、所見を伺う。

答（市長） ⑥指定ごみ袋導入は令和8年4月1日、一元化は令和10年度が目標である。ごみ袋をただで買っている方はいない。ごみを多く出す家庭の応分負担は、公平と言えるのではないかと。

答（市民部長） ①2月13日、さしま環境管理事務組合全員協議会で市民向けガイドブックの説明があり、協議している。②製造費、手数料、委託料等の詳細は、いずれも決定していない。袋の価格は構成市町間で不公平感が生じないように、組合提示の

設定案に準じるのが望ましいと考える。③指定ごみ袋導入により、可燃ごみが削減できれば、年間収集日数を減らす検討も必要である。④坂東市のごみ処理施設までの距離や時間等の問題がある。古河地区市民の方々には、20年以上前からプラスチック容器分別に協力いただき、感謝している。古河クリーンセンターは、一元化後は施設廃止を考えており、跡地利用を踏まえ、組合と協議している。⑤説明会のスケジュールは未定である。あくまでもごみ減量化が着地点であり、持続可能な循環型社会の構築につながると考えている。



齊藤 由美子 議員



古河駅周辺の活性化について

問 ①駅周辺の現状と課題、②「華のある都市 古河^{まち}」を目指すには。駅周辺の活性化に向けた今後の取り組み、以上について伺う。

答（副市長） ①空き店舗の増加等が深刻な課題である。②昨年立ち上げた古河サークルにて創業と事業承継を一体的に推進する。創業に関心のある方と、空き店舗所有者等が気軽に相談、

マッチングできる仕組みをオール古河市で取り組んでいく。

多文化共生の推進について

問 ①在住外国人の状況（国籍別人数や在留資格等）、②現行の在住外国人への支援、③多文化共生の現状の課題、④多文化共生に向けた今後の新たな取り組み、以上について伺う。

答（副市長） ④市内の意識醸成や、市内在住外国人にアンケートを実施し、令和7年度早期に多文化共生指針を策定する。

答（企画政策部長） ①ベトナムが約1,510人と最多で、就労可能な在留資格が増加している。②外国人アットホーム in 古河で一元的相談窓口を設置している。

③県内4番目に外国人が多く、生活支援等は急務の課題である。

英語教育について

問 ①現行の英語教育活動の内容、②今後の英語教育の充実と推進、以上について伺う。

答（教育部長） ①小学校1・2年生の生活科の授業時数を年間10時間ずつ英語活動に充てている。②対面方式としてイングリッシュキャンプ、オンライン方式としてジョイタイム等を実施し、英語力向上を目指す。

